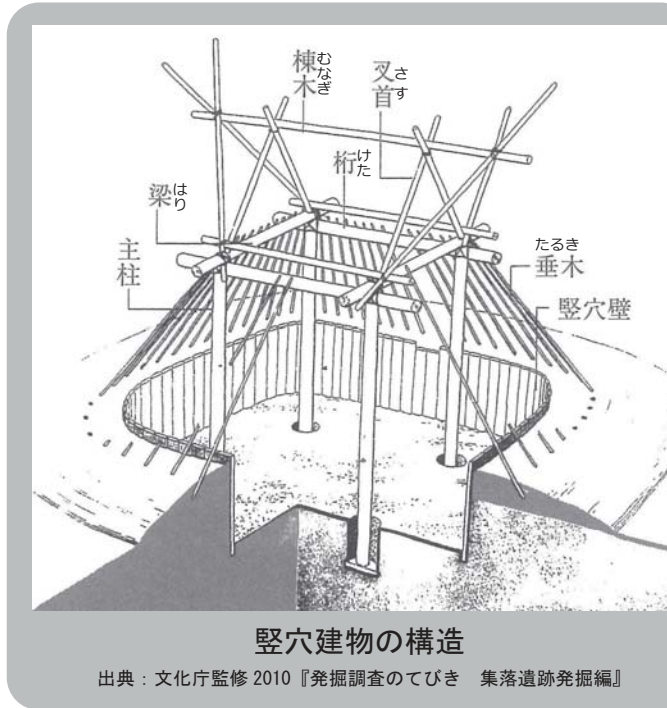


焼失竪穴建物（13号竪穴建物）について

- ◆炭化した梁や垂木などの建築部材が50点以上出土し、丸太状の梁の上に、板状の垂木を立てかけて屋根をつくる様子がわかりました。
- ◆建物内には赤く焼けた土が厚く堆積しており、屋根には土がふかかれていたと考えられます。
- ◆床面で、甕の口縁部が4点出土しました。土器を置くための台（器台）として使用したと考えられます。
- ◆建物内に堆積した土のなかから、スタンプ文様がつけられ、赤色にぬられた台付装飾壺が出土しました。（倉吉市内では3例目）



炭化材出土状況（北西から）



炭化材出土状況（部分）（南から）



焼土の堆積状況（南東から）



断面U字状のピット断割（北西から）

まとめ

- 第1～2次発掘調査の結果、両長谷遺跡のある丘陵尾根上では、弥生時代後期（約2,000年前）に集落が営まれていたことがわかりました。また、竪穴建物の数と比較して、掘立柱建物が非常に少ない傾向にあります。
- 台付装飾壺は、祭祀に用いたと考えられていて、因幡を中心に分布を示します。焼失竪穴建物（13号竪穴建物）から出土したものは、本来の形態から変容しており、地元でつくったと推定されます。

両長谷遺跡第2次 発掘調査 現地説明会

令和元年6月1日（土）
倉吉市教育委員会 文化財課

- 調査場所 倉吉市国府字両長谷
- 調査期間 平成30年6月11日～現在調査中
- 調査契機 産業廃棄物処分場造成
- 調査面積 3,800㎡

○調査概要

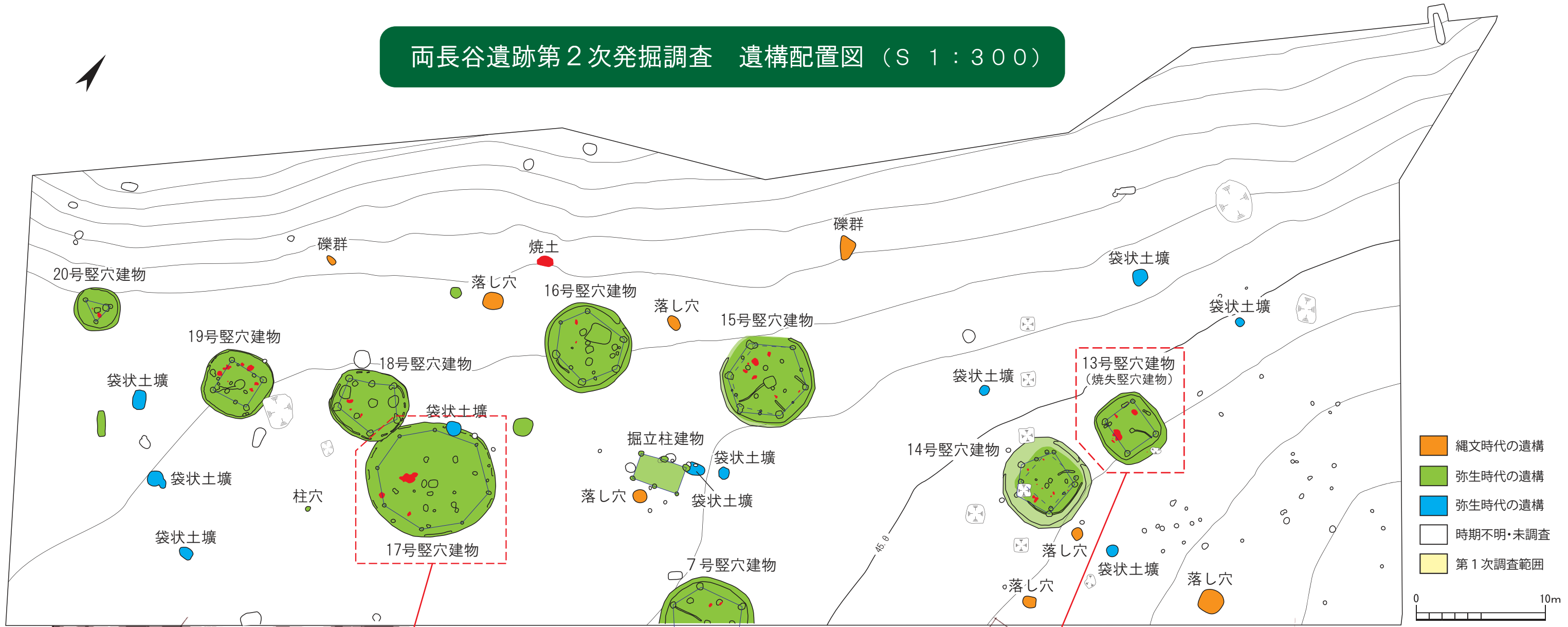
両長谷遺跡は、四王寺山と谷をへだてて西側の久米ヶ原丘陵上に位置します。平成7年度に行った第1次発掘調査では、丘陵尾根上で弥生時代後期（約2,000年前）の集落跡、丘陵南斜面で古墳時代終末期（約1,400年前）の古墳群を確認しました。

第2次発掘調査では、丘陵尾根上から北斜面の肩部で、弥生時代後期の集落跡を調査しています。これまでに、焼失した竪穴建物や最大径約10m（市内最大規模）の竪穴建物を含む竪穴建物9棟のほか、掘立柱建物1棟、貯蔵穴（袋状土壇）10基、落とし穴6基、礫群2基などを確認しました。



周辺の弥生時代後期の遺跡（○は集落跡、その他は墳墓）

両長谷遺跡第2次発掘調査 遺構配置図 (S 1:300)



17号竖穴建物 完掘 (北から)

13号竖穴建物 炭化材出土状況 (西から)